

化学物質等安全データシート

1. 製品および会社情報

製品名 : エアブローオイル32GC
推奨用途 : 不水溶性切削油剤
会社名 : 株式会社アマダ
住所 : 神奈川県伊勢原市石田200
TEL:0463-96-1111

お問い合わせ先 : オイルセンター 技術グループ
および緊急連絡先 TEL:048-710-4510 FAX:048-710-4517

2. 危険有害性の要約

GHS分類

引火性液体	区分外
急性毒性(経口)	区分5(シンボル:なし、注意喚起後:警告)
急性毒性(経皮)	区分5(シンボル:感嘆符、注意喚起後:警告)
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分4(シンボル:感嘆符、注意喚起後:警告)
皮膚腐食性/刺激性	区分3(シンボル:なし、注意喚起後:警告)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A(シンボル:感嘆符、注意喚起後:警告)
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分2(シンボル:健康有害性、注意喚起後:警告)
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器/全身毒性(単回ばく露)	区分2(肺)(シンボル:健康有害性、注意喚起語:警告)
特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露)	区分1(肺)(シンボル:健康有害性、注意喚起語:危険)
吸引力呼吸器有害性	分類できない
水生環境有害性・急性	分類できない
水生環境有害性・慢性	分類できない

ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語 : 警告、危険
危険有害性情報 : 飲み込みと有害のおそれ
皮膚に接触すると有害
吸入すると有害
軽度の皮膚刺激
重篤な眼への刺激性
遺伝性疾患のおそれの疑い
臓器の障害のおそれ
長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害

注意書き

【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

容器を密閉し、取扱い時にこぼれない様に注意すること。
 熱、火花、高温体などの着火源から遠ざけること。禁煙。
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器、火花のでない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講じること。取扱う際は、導電性の良い金属容器を使用し必ずアースをすること。
 保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。
 屋外または換気の良い場所でのみ使用し、ミスト、蒸気の吸入を避けること。また、飲み込まないこと(飲み込むと下痢、嘔吐する)。
 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
 取り扱い後はよく手を洗うこと。
 空容器に圧力をかけないこと(破裂の恐れがあるため)。
 容器を溶接、加熱、穴あけ又は切断しないこと(残留物が爆発・発火する恐れがあるため)。
 環境への放出を避けること。

【救急処置】

火災の場合は消化には粉末、泡、炭酸ガス消化器を使用すること。
 皮膚(又は髪)に付着した場合は、直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水(又はぬるま湯)と石けんで洗うこと。汚染された衣服を再使用する場合は洗濯すること。
 皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断・手当を受けること。
 眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。医師の診断・手当を受けること。
 吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 飲み込んだ場合は、無理に吐かせないで直ちに医師の手当を受けること。
 医師の診断が必要な場合は、製品容器又はラベル(又はMSDS; 本書類)を手元に用意すること。

【保管】

直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。
 容器を密閉し、保管場所に施錠すること。
 子供の手の届かない場所に保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託(不明の場合は購入先に相談の上処理)すること。

3. 組成、成分情報

物質

単一製品・混合物の区別

: 混合物

化学名又は一般名

: 石油系炭化水素、潤滑油添加剤

化学式

: 特定できない

成分および含有量

: 潤滑油基油	89 ~ 99質量%
: 潤滑油添加剤	1 ~ 11質量%

4. 応急措置

吸入した場合

: 新鮮な空気の場所に移し、水でよく口の中をうがいさせる。身体

を毛布などでおおい、保温して安静に保ち、直ちに医師に連絡する。

- 皮膚に付着した場合 : 水と石鹼で付着した部分を洗う。
- 目に入った場合 : 直ちに清浄な水で最低15分間、目を洗浄し、コンタクトレンズを着用している場合は外す。その後も洗浄を続ける。刺激が続く場合は、医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。吐かせないこと。
口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗う。
- 予想される急性症状および遅発性症状並びに最も重要な兆候および症状 : 飲むと下痢、嘔吐する可能性がある。
眼に入ると炎症を起こす可能性がある。
皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。
ミストを吸入すると気分が悪くなる可能性がある。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 消火に棒状の水を用いてはならない。
- 特有の危険有害性 : 火災によって刺激性、または毒性のガスを発生するおそれがある。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合は、容器を破損しないように注水し、冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を絶つ。
初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。
大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。注水は、火災を拡大し危険な場合がある。
周囲の設備などに散水して冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業は保護メガネ、保護衣、状況によっては呼吸保護具を着用して、風上から行う。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置 : 直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は、保護具を着用する。ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと。
風上に留まる。
密閉された場所に立ち入る前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 土壌の汚染、水質汚濁に繋がるので、可能な限り回収する。
環境中に放出してはならない。
- 回収、中和 : 大量の場合: 盛土で囲って拡散防止をはかってから、掃き集め空容器に回収後安全な場所にて処理する。処理後は大量の水で洗いながす。この場合、濃厚排水が河川等の公共水路に流入しない様に注意する。
作業の際には必ず保護具を着用する。
少量の場合: 土砂、ウエス等で吸着させて空容器に回収し、更にウエス等で完全に拭い去る。
- 封じ込めおよび浄化の方法・機材 : こぼれた場合は液の拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は適当な吸収剤を使用して回収する。止むを得ない場合は薬剤を使用する。薬剤を用いる場合には運輸省令で定める技術上の基

二次災害の防止策

- 準に適合したものでなければならない。
 漏出物を取り扱うときに用いるすべての設備は接地する。
 : すべての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
 関係箇所に通報し応援を求める。
 容器内に水を入れてはいけない。

7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い

技術的対策

- : 指定数量以上の量を取り扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取り扱い所で行う。
 危険物が残存している機会設備などを修理する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行うこと。静電気対策を行い、作業着、靴なども導電性のものを使用する。
 石油製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。そのため、換気および火気などへの注意が必要である。
 常温で取り扱うものとし、その際、水分、きょう雑物の混入に注意する事。
 皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は、保護具を着用する。ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと。
 容器から取り出すときはポンプなどを使用すること。
 細管を用いて口で吸い上げてはならない。
 容器を溶接・加熱・穴あけまたは切断しないこと。爆発を伴って残留物が発火することがある。

局所排気装置・全体換気
 接触回避
 安全取り扱い注意事項

- : 8. 暴露防止および保護措置を参照。
 : 10. 安定性および反応性を参照。
 : 使用前に取り扱い説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 火気注意。
 空気中の濃度を暴露濃度以下に保つために換気を行うこと。
 取り扱い後はよく手を洗うこと。
 屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。
 この製品を使用するときに飲食または喫煙をしないこと。
 空容器に圧力をかけないこと。圧力をかけると破裂することがある。
 飲まないこと。
 子供の手の届かない所に置く。

保管

適切な保管条件

- : 直射日光を避け保管する。
 危険物の表示をして保管する。
 保管場所で使用する電気器具は、防爆構造とし、器具類は接地する。
 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触ならびに同一場所での保管を避ける。

安全な容器包装材料

- : 危険物の規制に関する規則別表第3の2
 容器は危険物に規則に関する技術上の基準の細目を定める告示第68条の5に定める容器試験基準に適合していることを自主確認すること。

8. 暴露防止および保護措置

設備対策	: ミストおよび蒸気が発生する場合は発生源の密閉化、または排気装置を設ける。取扱場所近辺に、洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 高温工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
管理濃度	: 規定なし (作業環境評価基準: 厚生労働省告示第79号別表)
許容濃度(ばく露限界、生物学的ばく露指標)	
日本産衛学会(2008年度版)	: 時間荷重平均 TWA 3mg/m3 (鉱油ミスト)
ACGIH(2008年度版)	: 時間荷重平均 TWA 5mg/m3 (鉱油ミスト)
保護具	
呼吸器の保護具	: 適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	: 必要に応じて耐油性保護手袋を着用する。
眼の保護具	: 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。
皮膚および身体の保護具	: 必要に応じて適切な保護衣、保護面を使用すること。 長時間にわたり取り扱う場合または濡れる場合には、耐油性の長袖作業着を着用する。 導電性安全靴を着用する。
衛生対策	: 取り扱い後はよく手を洗うこと。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。 作業中は飲食、喫煙はしない。

9. 物理的および化学的性質

物理的状态	
形状	: 液体
色	: 透明
臭い	: 石油臭
pH	: 該当しない
融点	: 流動点: -20
沸点	: 初留点: 250 以上(推定値)
引火点	: 216 (COC)
爆発範囲(爆発限界)	: 上限: 7% 下限: 1%(推定値)
蒸気圧	: データなし
蒸気密度(空気 = 1)	: データなし
密度	: 0.874 g/cm ³ (15)
溶解度	: 水に難溶
n オクターノール/水分配係数	: データなし
自然発火温度	: データなし

10. 安定性および反応性

可燃性	: あり
発火性	: なし(自然発火性、水との反応性)
安定性	: 極めて安定であり、反応性は殆どない。
反応性	
酸化性	: なし

自己反応性・爆発性	: なし
避けるべき条件	: 強酸化剤との接触は避ける。
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 燃焼により一酸化炭素など発生する可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性

経口 : LD50 = 4989 mg/kg 以上 (ATEmix)
混合物の分類方法にもとづき混合物として区分5とした。

経皮 : LD50 = 4847 mg/kg 以上 (ATEmix)
混合物の分類方法にもとづき混合物として区分5とした。

吸入 : LD50 = 2.18 mg/L 以上 (ATEmix)
混合物の分類方法にもとづき混合物として区分4とした。

皮膚腐食性 / 刺激性 : 鉱油のデータとして、以下の記載がある。
ウサギを用いた試験により、軽度の刺激性と記述されている報告がある。区分3とした。

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 : 鉱油のデータとして、以下の記載がある。
ウサギを用いた試験により、軽度の刺激性と記述されている報告がある。区分2Aとした。

呼吸器感作性 : 現在のところ有用な情報なし。

皮膚感作性 : 鉱油のデータとして、以下の記載がある。
モルモットを用いたOECD Guideline406に準拠した複数の試験(maximization testを含む)により、いずれも感作性なしとの結果が得られている。

生殖細胞変異原性 : 鉱油のデータとして、以下の記載がある。
ラットを用いた細胞遺伝学的試験(体細胞in vivo 変異原性試験)における異常細胞が増加した。職業暴露を受けたヒトの末梢血リンパ球で染色体異常の頻度増加が観察された。生殖細胞 in vivo 遺伝毒性試験について有用な情報なし。区分2とした。

発がん性 : 鉱油のデータとして、以下の記載がある。
EUによる評価では、発ガン性物質としての分類は適用される必要はない。

生殖毒性 : 現在のところ有用な情報なし。

特定標的臓器 / 全身毒性 (単回ばく露) : 鉱油のデータとして、以下の記載がある。
ラットに吸入暴露した試験により、肺に肉眼的、病理組織学的な急性変化(詳細不明)が用量依存性(1.51 ~ 5.05mg/L)に見られたとの記述がある。
混合物として特定標的臓器 / 全身毒性(単回ばく露) 区分2(臓器(肺)の障害のおそれ)に分類される。

特定標的臓器 / 全身毒性 (反復ばく露)	: 鉱油のデータとして、以下の記載がある。 長年にわたり鉱油、あるいはそのミストの暴露を受けたヒトで肺繊維症、脂肪肺炎、肺の脂肪肉芽腫が報告されている。 混合物として特定標的臓器 / 全身毒性(反復ばく露) 区分1(長期または反復暴露による臓器(肺・)の障害)に分類される。
吸引性呼吸器有害性	: ヒトの鉱油の摂取により肺への吸飲を起こし、その結果、油性肺炎または化学性肺炎をもたらすとの報告がある。

12. 環境影響情報

移動性	: 物理化学的性質から見て、大気、水系、土壤環境に移動しうる。
残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
生態毒性	: 情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、または知事等の許可を受けた処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。 投棄禁止。 埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃殻について、下記の物質が総理府で定めた基準以下であることを確認しなければならない。 銅又はその化合物、亜鉛又はその化合物、ふっ化物、アルキル水銀化合物、水銀又はその化合物、ヒ素又はその化合物、六価クロム化合物、有機りん化合物、鉛又はその化合物、カドミウム又はその化合物、シアン化合物、PCB。
焼却する場合	: 燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害をおよぼす恐れのない方法で行うとともに、見張り人をつけること。
汚染容器包装	: 内容物を完全に除去した後に残余廃棄物と同様に産業廃棄物として処理する。

14. 輸送上の注意

国際規制	: 該当しない
国連分類	: 該当しない
国内規制	:
陸上	: 消防法 危険物 第四類第四石油類 危険等級 (非水溶性)
海上	: 該当しない
航空	: 該当しない
特別の安全対策	: 輸送に当該危険物が転落し、または危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 危険物または危険物を収納した容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬すること。 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れるなど、災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずるとともに最寄の消防機関その他の関係機関に通報すること。 輸送の際には直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのない

ように積込、荷崩れの防止を確実に行う。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 通知対象物 (政令番号 第168号 鉱油) 含有量 93～98質量%
化学物質排出管理促進法	: 該当しない
毒物および劇物取締法	: 該当しない
消防法	: 危険物 第四類第四石油類 危険等級 (指定数量6000L) 非水溶性
水質汚濁防止法	: 油分排出規制(5mg/L 許容濃度) ノルマルヘキサン抽出分として検出される
海洋汚染防止法	: 油分排出規制(原則禁止)
下水道法	: 鉱油類排出規制(5mg/L)
廃棄物の処理および清掃に関する法律	: 産業廃棄物規制(拡散、排出の禁止)

16. その他の情報

引用文献等	: 1) 日本産業衛生学会許容濃度等の勧告(OELs) 2) Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices. (ACGIH) 3) European chemical Substans Infomation System 4) (独)製品評価技術基盤機構(NITE)
-------	---

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意してください。

この製品安全データシートは、当社の製品を適正にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の手配を対象としたものです。

本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。

ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保証もするものではありません。また、法令の改正および新しい知見に基づいて改訂されることがあります。